

主の2026年を迎えました。あけましておめでとうございます。この年も先立ち導いてくださる主に信頼し、従いお仕えし、平安の裡に歩ませていただきたいと思ひます。

祝福された「これから」

新しい年を迎えるにあたって、4月から始まる新年度の歩みのために導きを求めてきましたが、今日の説教題にあるように「これからの教会を展望する」という主題を心に留めて歩みたいと思っています。私たちは今年度、神のみこころの計画を展望する一年を願って歩んできました。それは主によって与えられるビジョンを見出すと言うことでしたが、新年度は更に具体的に「これからの教会」を信仰の高嶺から臨み見よう、展望しようと思わされています。この「これから」という言葉には三つの意味が含まれています。その一つは直近の2026年度という「これから」です。そして次世代という「これから」、三つ目は遠い将来を意味する「これから」です。

実は10年前の2016年の新年礼拝でも、『教会の将来のことを考え準備しなければならない』とお話しました。『若い方々に次の時代の教会の働きを担っていただくために、また与えられている宣教の働きのために、そして教会堂の維持管理のために、色々と備えなければならないことがあります。』と話しました。信仰による未来の拡がり、主にある「これから」を意識していたのです。その一年半前に、二人の女子小学生が洗礼に導かれ、その後高校生、中学生、そして小学生たちの6人が信仰告白に導かれ、その他に若い人たちが受洗に導かれました。教会堂の維持管理においては、照明器具やエアコンの入れ替え、また外壁の塗装を行い、そして今年は屋根の塗装を行おうとしています。牧師館の建設にも導かれました。この10年間を振り返りますと、「これから」を考えようと心がければ、主はその期待に応じてくださると言うことがわかります。ですから今もう一度「これから」を考えよと主は仰せになっているのだと思っています。2026年度を、次世代を、将来を展望しなさいと言われているのです。

キリスト者は過去の罪を神の御前に悔い改め、またこれから後の歩みに対する神の導きを求めながら、日々歩む者とされているのですから、今日から後の「これから」を主がどのように導いてくださるのか、信仰によって臨み見る必要があります。

聖書のみことばは、私たちの「これから」の歩みについて、主なる神は祝福して下さると約束しています。今月通読します民数記6章24～26節には、「主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。」と、大祭司の祝福と言われるみことばが記されています。聖書にはこのような神の祝福の約束が繰り返して語られています。ですから教会と私たちの「これから」も神の祝福の中に導かれると信じます。主が常に御顔を向け、御目を留めてくださり、恵みを注ぎ平安を与えてくださいます。この地にあって地の果てに向かって福音を証する時に、人々が神を畏れ敬うようになることを主は約束しておられるのです。

この祝福された「これから」に向かって、信仰によって歩み出し、そこに神の祝福の拡がりを見出すことができるようにと願ひます。

キリストのからだとその部分

さて、三つの「これから」があると申しましたが、その一つは将来に向かう直近の「これから」、つまり2026年度の歩みを展望するということです。今朝お聞きしていますローマ人への手紙12章3～8節から、私たちは一つのキリストのからだである教会に属していること、また教会とキリスト者のあるべき姿を見出し、広く見渡す一年を歩みたいと思ひます。勿論それは来年度だけのことではありませんが、目に見える地上の組織としては、私たちは教会と教会員と言う関係ですが、信仰の視点においては、教会は「キリストにあって一つのからだ」であり、私たちはその一つのからだに属する「器官」であるとみことばは教えています。同様のことを教えているコリント人への手紙第I、12章27節には「あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です。」と記されています。からだの各器官、各部分のように、私たちはキリストのからだである教会に連なる一つの部分であるということ、一人ひとりがからだの一つの部分であるということ、そして互いに結び合っていると言うことです。そのことを再確認し、そのあり方について、特に二つのことを心に留めたいと思ひます。

その一つは、「キリストにあって一つのからだ」に各部分として連なっている私たちに、「慎み深く」ありなさい言われているのです。3節に「思うべき限度を超えて思い上がってはいけません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深く考えなさい。」とされています。テトスへの手紙にも「慎み深く」とあり、そしてペテロの手紙では「身を慎み」と繰り返して教えられています。またテモテへの手紙には、「神は私たちに…力と愛と慎みの霊を与えてくださいました。」と教えられています。テモテへの手紙第II、1章7節に記されています。そして今朝お聞きしていますローマ人への手紙12章3節には、「思い上がってはいけません。」と警告して、「神が…分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深く」と勧められています。私たちは慎み深くあることを聖霊と信仰によって身につけさせていた抱きたいと思ひます。遜ることと謙遜であることを、聖霊によって教えられ、信じて受け止め、そうして「キリストにあって一つのからだ」として整えられていくのです。

二つ目に教えられることは、「一つのからだ」である教会に連なる私たち「一人ひとりは互いに器官」だと言うことです。コリント人への手紙第I 12章には「ちょうど、からだが一つでも、多くの部分があり、からだの部分が多くても、一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。」と書かれています。キリストのからだである教会の各部分、各器官である私たちは、多くの部分の一つであり一つの器官だということです。そしてそれは欠くことのできない存在であり、また他の器官と結びついているということ、更にかしらであるキリストに結びついているということの意味しています。

このローマ人への手紙 12章4~5節には、「一つのからだには多くの器官があり、しかも、すべての器官が同じ働きをしてはいないように、大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人ひとりは互いに器官なのです。」と記されています。そして6節では「私たちは、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物を持っているので」と言った後に、様々な「賜物」について記し、それぞれの賜物を「その信仰に応じて」用い、そして「惜しまずに」「熱心に」「喜んで」行うようにと教えています。

私たちがキリストのからだの器官、部分として、教会の働きを具体的に担っていくことを学ばされます。毎年新年度を迎えると、奉仕分担の申し出をしていただきますが、どの奉仕によってキリストのからだである教会に関わるのか、与えられている賜物を信仰によって受け止め、それを惜しまずにキリストのからだのために生かして用い、その奉仕に熱心に携わり、いやいやながらでなく喜んでそれを担い、聖霊によっていただく慎みをもって仕えていく、それが奉仕です。教会の働きの全体を担う執事の方たちが、分担して教会の働きを担い、そこに一人ひとりが加えられ、「与えられた恵みにしたがって」担い合うのです。これまでもそうしてきたと理解していますが、もう一度みことばによって教えられて歩みたいと願わされます。

次世代・将来という「これから」

更に次世代という「これから」と、また遠い将来を意味する「これから」について、聖書のみことばは、次世代にそして遠い将来に、神のなされたこと、そのみわざを伝えるようにと教えています。

ヨエル書 1章2~3節には、「長老たちよ、これを聞け。この地に住む者もみな、耳を傾けよ。このようなことが、あなたがたの時代に、また先祖の時代にあったらうか。これをあなたがたの子どもたちに伝え、子どもたちはその子どもたちに、その子どもたちは後の世代に伝えよ。」とあります。また同様のみことばが、旧約聖書の各所に記されています。出エジプト記 10章2節には、「わたしがエジプトに対して力を働かせたあのこと、わたしが彼らの中で行ったしるしを、あなたが息子や孫に語って聞かせるためである。こうしてあなたがたは、わたしが主であることを知る。」と書かれています。申命記 4章9節にも、「ただ、あなたはよく気をつけ、十分に用心し、あなたが自分の目を見たことを忘れず、一生の間それらがあなたの心から離れることのないようにしなさい。そしてそれらを、あなたの子どもや孫たちに知らせなさい。」と命じられています。詩篇の記者は、78篇4節に「それを私たちは息子たちに隠さず後の時代に語り上げよう。主の誉れを主が行われた力ある奇しいみわざを。」とうたっています。

このように、みことばは次世代への、また将来への信仰の継承を願って教えています。それゆえ、みことばは後の時代の教会を展望するようにと私たちに求めているのです。私たちの教会の現住陪餐会員の30%が75才以上です。70才以上となると41%です。ですから、教会がキリストのからだとして生かされ続けるためには、若い子ども連れの家族や、青年たちが加えられることを展望しなければなりません。次の時代を担う人たちに主なる神ご自身を伝え、神のみことばを伝え、イエス・キリストにある救いのみわざについて語り上げ、キリストのからだの部分として加えられ、教会が更に広がり形作られていくよう祈りたいと思います。私たちに託された働きを展望することが求められているのです。

まとめ

新しい年を迎えて、心新たに主に信頼して歩みます、益々主を畏れ敬いつつ歩みますと、そのように告白するとともに、キリストのからだに連なる各部分として、惜しみなく、熱心に、喜んで仕えましょう。何をどのようにして仕えるのかを見い出し、広く見渡し、展望したいと思います。